

日時 令和2年6月19日（金）

1 議 題

(1) 令和元年度高齢者福祉施策の実績及び令和2年度見込みについて 【資料No.1】

○今後、単身高齢者及び高齢者世帯の激増は明らかなので、高齢者サービス事業について、少しずつ充実させ、前進されることを望む。

○寝具洗濯乾燥消毒サービス事業の見込回数減少の理由は。

⇒毎年、変動があり、見込回数が読みづらいのが現状。

平成29年度から令和元年度までの実績から利用見込の概算として、平均値を算出。

○緊急通報装置の総台数は。

⇒令和元年度末時点で、49台。

平成29年度から令和元年度の新規取付台数が減少していることに対し、令和2年度の取付見込台数を増加している理由は。

⇒毎年、新規取付台数に変動はあるが、単身高齢者及び高齢者世帯の増加に伴い、増加することを想定している。

○介護者として、有意義な施策であり、感謝している。充実した施策が持続されることを望む。

○配食サービスは、どのように作られ、どのように届けられるのか。

⇒大口町の高齢者福祉施策としては、町内2事業所に委託して実施。

サービス利用開始前にそれぞれの事業所から栄養士が訪問及び面談し、対象者本人及び家族の状況を把握したうえで、食事が提供される。本事業では、昼食・夕食のいずれかの配達代を町が負担。

それぞれ、配食サービス事業所から本人の自宅（玄関）まで配達されており、食事の提供に加え、見守りサービスも行われている。

○事業の増加に伴い、人的・財政的な苦労も懸念するが、引き続きの施策充実を望む。

(2) 令和元年度介護保険事業の実績について 【資料No.2】

○団塊の世代が後期高齢者となる2025年までに介護保険給付は増え続けるが、今後も町が、保険者として機能し、介護保険制度が正しく機能し維持されるよう努められたい。

○給付実績等から在宅の要介護者の重度化が想定されると考える。

○利用者数の需要とサービス共有のバランスについて、公平公正に保たれているのか、いつも気になる。

- 増え続ける高齢者数から、介護保険事業の限界を感じることもある。可能な限りのサービスの提供を望む。

(3) 令和元年度大口町地域包括支援センター活動のまとめ（高齢者編）

【資料 No. 3】

- フレイル予防のため、介護予防把握事業として、生活機能チェックリストを実施されているが、介護予防事業利用者が令和元年度減少している理由は。

⇒平成30年度にスタートした『通所型サービスC事業（利用期間：6か月）』の利用人数を計上している。平成29年度までは、ある一定程度の期間を定め、複数の教室を行ったり来たりするスタイルで利用可能としていたが、本事業のスタート以降、短期集中型介護予防事業として、可能な限り、新規利用者（新規対象者）を優先させており、利用者が減少しているように見えると推測する。

- 高齢者世代の健康意識が高くなっている理由のひとつとして、いざという時の介護保険サービスの利用に不安があることが挙げられる。新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、安心して住み慣れた地域で過ごし続けられるよう、本年度は、施設サービスの説明会を検討している。

- 地域包括支援センターの重要性の高まりを感じる。

- きめ細かい活動や対応に感服している。

- 高齢者の心身の健康のため、様々な観点からの働きかけを望む。

(4) 大口町高齢者等実態調査結果のまとめと課題 【資料 No. 4】

- 人生会議（ACP）について、もっと町民に啓発する必要がある。具体策を検討しているか。

- 外出方法として、タクシーチケットとコミュニティバスの利用状況は増加しているか。

⇒一般高齢者を対象とした調査においては、第7期に比べ、「自転車」や「自分で運転する車」による外出が低下しているのに対し、「徒歩」や「タクシー」「コミュニティバス」は増加している。在宅認定者については、同居している家族が運転する車による移動が最も多いが、要支援1・2の方については、タクシーを利用している状況も見受けられる。

- 自由意見に、各施設の情報や特徴を求める声があったことを受け、施設として、パンフレットの見直しを検討したい。また、高齢者世代のネット普及率が増加することも見込まれることから、ホームページの充実も図っていきたい。

- 在宅での看取りには、介護人材が必要不可欠。介護人材の確保（特に夜間）の課題は大きくなると考える。人材不足による対応困難な状況も懸念される。
- 的確なニーズの把握には、先入観のない聴き取りが大切。代筆による回答もある中、どこまで要支援・要介護者の真意が汲み取られているのか想像しながら、調査結果を読んだ。
- 様々な観点からよくまとめられている。真にサービスを必要とされる方が利用できるよう、個々に寄り添った支援を望む。
- 認知症の方や認知症介護者に対するサポートの場の整備を進められたい。

(5) 第8期介護保険事業計画骨子（案）について 【資料 No. 5】

- 第7期同様、この骨子にそって計画を進められたい。
- 地域包括ケアシステムの構築と併せ、医療・介護・福祉の連携が最重要と考える。
- 歯科訪問診療が行われていることへの周知啓発に努められたい。
- 介護事業所の運営にあたり、今後、介護職員の人材不足を懸念している。安定したサービスの提供に人材確保は不可欠だが、年々有効求人倍率は高くなり、人材確保が困難になっている。今後は、高齢者世代の雇用も含め高齢者の活躍の場の提供について検討を進めたい。
- 介護人材の確保の方法について検討する必要がある。
- 生活支援の充実において、特に移動手段の多様性についても考慮すべき。
- 理想的な「ほほえみ計画」を実現させることで、住みよい幸せなまちになることを想像し、自身の将来と重ね合わせ、実現、実践できる計画であることを願う。

(6) その他

- 介護予防支援事業所の委託状況について 【資料 No. 6】
- 指定地域密着型サービス事業所の指定更新について 【資料 No. 7】